

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度実施の標準学力調査では、「話すこと・聞くこと」の領域において、「話し手が知らせたいことを落とさないように聞く」という内容の正答率が42.9%であった。また、「話し手の話に関心を持ち、質問する」という内容の正答率は28.6%と目標値を大きく下回っており、課題であると考えられる。 漢字と文章を書く問題の正答率が33.3%で、漢字の書き取りと自分の思いや考えを文章にすることに課題が見られる。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度未就学のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをクラス全体に説明する機会を多く取り入れ、それに対しての質問や感想を伝え合う活動を様々な単元で行っている。 漢字に関しては、ベーシックタイムや国語の時間に小テストを行い、筆順や読み書きの定着を図っている。 文章を書く際には、初め・中・終わりに書く内容を短い言葉でまとめてから、そのメモをもとに長い文章を書くように指導している。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 朝の会等で日直がスピーチを行い、それに対して質問や感想を伝え合う時間を設定する。 ベーシックタイムや国語の導入時に既習漢字の小テストを行い、漢字の定着を図る。 構成メモを自分の力で書けるように、個別指導と全体でも繰り返し指導していく。 	<p>＜検証方法＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 国語の発表の際に、話し手の内容に沿った質問や感想が言えているか。 学期に2回行っている漢字のまとめテストの結果。 構成メモをもとに、原稿用紙を正しく使い、文章を書くことができているか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ほとんどの児童が発表に対しての感想や質問を言えるようになった。 文章を書く際に、自分のメモをもとに短い文章を書くことができるようになった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の中にはまだ文章をスムーズに読んだり、語句のまとまりを捉えたりすることが難しい児童がいること。 漢字の習得の個人差が大きいこと。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習内容を理解するのに個人差が大きいので、一斉授業の中での個別支援をどう進めていくか、計画をしっかりと立てる。 漢字の学習や発表については、繰り返し行い、身に付けられるようにする。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分の考えを文章や発表で表現できる児童。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 算数科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・令和5年度実施の標準学力調査では、数と計算（ひきざん）の問題の正答率が72.9%と目標値を下回っており、課題が見られる。
- ・図形（かたち）の問題の正答率が60.7%、データの活用（えをつかったグラフ）の問題の正答率も64.3%であり、第2学年の算数の学習においてもつながっていく内容であるため、確実に定着させることが必要となる。

2. 課題改善に向けた取組状況

（1）令和3年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和3年度未就学のため、記載なし。

（2）今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・たし算・ひき算の単元の授業の際は、導入時にフラッシュカードを使用して素早く計算ができるように取り組んでいる。
- ・自分の考えを言葉や式、図を用いて説明する機会を設けている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①たし算、ひき算の文章問題をベーシックタイムに取り組みさせる。
- ②2学期の「三角形と四角形」という図形の学習をする際に、既習内容を丁寧に復習する。また、実際に図形を移動したり、紙を折ったりして図形の性質を理解できるように指導する。

<検証方法>

- ①日々の問題に取り組んでいる様子や学期末のまとめテストの結果。
- ②単元テストや学期末のまとめテストの結果。

4. 検証結果（成果と課題）

<成果>

- ・基本的なたし算ひき算については、繰り返し行ったことで概ね定着した。
- ・実際に手を動かして図形の学習を行ったことで、面・辺・頂点への理解が深まった。

<課題>

- ・文章題を自分の力で読み解くことが難しい児童がいること。

5. 令和6年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

- ・既習の事項を使った学習を始める際には、丁寧に既習事項を思い出す時間をとる。

6. 令和6年度（次学年）末に期待する児童の姿

基礎・基本的なことを確実に身に付け、何を問われているのか想像しながら考えることができる児童。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 生活科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・植物の様子や状態を観察カードに記録する際に、観察した事柄を自分の言葉で詳しく書けている児童が少ない。・町探検の計画を立てる際に、自分事として考えて質問する内容を考えたり、メモを取ったりする力が身に付くとよい。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和3年度未就学のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・観察に行く前に、観察の視点を具体的に説明するようにしている。(大きさ、形、におい、触った感じなど。)・自分たちが住んでいる町の秘密について調べるために、どんなことを聞いたり、見たりしたいのか問いかけて、友達の発言を参考に質問の内容を考えられるようにしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①毎回の観察の際に、観察の視点を明確に伝えて、全ての視点をカードに記入するように声かけしていく。また、植物の観察を通しての感想も書けるように指導していく。</p> <p>②質問を考えたときに、「仕事について」、「お店のことについて」など、大きなカテゴリー分けをしてから質問を考えさせる工夫をする。また、メモの取り方を丁寧に指導する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①毎回の観察カードの記入で、植物の変化の様子を観察の視点に沿って詳しく書けているか。また、自分の言葉で感想を書くことができているか。</p> <p>②町探検計画カードの質問内容とメモの取り方の様子。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・観察の際に、具体的な視点を伝えたことで、見たことを言葉で表現し、記録することができるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・聞いたことをメモする際に、短い言葉で書けるようになること。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の言葉で感想を書けるように指導をする。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>見たり、聞いたりしたことを自分の言葉で表現できる児童。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度1学期末に実施した授業評価アンケートにおいて、音楽科では「じゅぎょうがすき」「がくしゅうしたことがわかりました」「じゅぎょうは、わかりやすい」「しつもんすると、わかりやすくこたえてくれる」という項目に、ほとんどの児童が「はい」と答えている。 歌唱の際の声の大きさや曲想に合わせた歌い方、器楽演奏の際の周囲との音の合わせ方に課題がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は未就学であるため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 帯活動として、リズムに合わせて楽器を自由に触れる時間を設定し、楽器の扱い方や音の出し方、鳴り方を体験的に理解できるようにする。 リトミックをベースとして、周囲の音を聞いたり、それらに合わせて体を動かすなどの表現をしたりする活動を取り入れ、表現力や思考力、集中力が高まるようにする。 歌唱や器楽の演奏は、範唱や範奏を何度も繰り返し、自然と覚えられるようにする。 児童の興味関心に合わせてレパートリーを決定し、蓄積していく「歌の本」を作り、意欲的に学習に取り組めるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①動画等の撮影，視聴を通して，自分たちの演奏を客観的に見られるようにする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①各授業の振り返りなどを分析する。年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①動画等の撮影，視聴を通して，自分たちの演奏を客観的に見られるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①各授業の振り返りなどを分析する。年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析する。</p>
<p><方策></p> <p>①動画等の撮影，視聴を通して，自分たちの演奏を客観的に見られるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①各授業の振り返りなどを分析する。年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の興味・関心に合わせて、自由に体験できる時間を設定したことで、歌唱や演奏の技術の向上や学習への意欲を高めることができた。動画等の視聴を通して、歌い方や演奏の仕方を改善しようとする姿が見られた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 歌唱の際、技能的に、全体で音色を合わせて演奏することが難しい場面があった。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的な傾向として、集中力を持続させて取り組むことが難しい場面がある。活動を短時間で区切り、メリハリのある学習展開をすることにより、集中力と学習への意欲を高めていくことができると考える。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>集中力を持続させて学習に取り組み、協働して音楽活動をする楽しさを味わうことができる児童。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間内に早く作品を完成させることを意識するあまり、色の塗り方や制作が雑になってしまう点が課題である。 ・日常的に目にしているデザインに強く影響されて、いわゆる「マンガ顔」や「キャラクター」をまねたような作風になってしまう児童がいる点が課題である。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度未就学のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・单元ごとに作品カードを書かせ、作品の写真を記録することで、早く完成させることよりも作品の完成度を重視することを伝え、自身の作品の完成度をより高めるような意欲付けや動機付けを行う。 ・制作過程において一人一人の作品の良い点を具体的に褒めることで、何かに似せるのではなく、自分独自性を追求する作品制作をできるようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①单元ごとに作品カードを書かせ、作品の写真を記録することで、早く完成させることよりも作品の完成度を重視することを伝え、自身の作品の完成度をより高めるような意欲付けや動機付けを行う。</p> <p>②制作過程において一人一人の作品の良い点を具体的に褒めることで、何かに似せるのではなく、独自性を追求する作品制作をできるようにする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①3学期末までに、最後まで自分の作品の完成度を高めるように制作するようになったか。</p> <p>②3学期末までに、独自性を追求する作品制作をできるようになったか。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の良い点を具体的に褒めることで、誰の作風にも似ていないユニークな作品を制作できるようになった点は成果である。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く完成させることよりも作品の完成度を重視することを伝え、様々な動機付けを試みたが、作品の完成度をより高める行動に十分結び付かなかった点が課題である。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が作品の完成度を高めるために、最後まで努力を継続するよう、有効な意欲付けの方法を模索する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の作品の完成度をより高めるために、最後まで努力を継続する児童。 	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度1学期授業評価アンケートでは、「体育の授業が好きですか」という項目に関して、7名中5名が「はい」と答えている。「体育の授業は分かりやすいですか」という項目に関して、7名中6名が「はい」と答えている。調査の結果から、体育の授業を苦手だと感じている児童が数名いるので、授業内容の改善を図るとよいと考える。少人数のため、複数のチームやグループを作ることが難しく、多様な作戦や考えが出ないことが課題である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">令和3年度未就学児のためなし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">1年生と合同で体育を行い、人数を増やして授業を行っている。どの運動でも複数人でのグループ活動を取り入れ、協働学習の機会を増やしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①グループ運動をさせる際に、ゲームをするときだけでなく、体づくり系の遊びも取り入れ、楽しみながら技能を高められるように工夫していく。②多くの場面で協働学習を取り入れ、多様な考え方や取り組み方に触れられるようにする。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①次回の修行評価アンケートの結果。②作戦会議の様子や学習カードの記入内容。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">様々な体づくりのゲームを通して、楽しみながら体の動かし方を理解できるようになった。友達の考えを聞き、自分の動きに取り入れながらゲームを楽しめるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">チームでのゲームにおいて、夢中になり過ぎて周りが見えなくなってしまうこと。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">落ち着いてしっかり話や説明を聞かせ、ルールを理解、徹底させて取り組ませる。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">友達の考えを聞いたり、協力したりして様々な運動に取り組む児童。	